

令和8年度
小平市立小平第二小学校
学校経営方針

つながるキャンパス
人と人のつながりを大切にする、笑顔あふれる学校へ

校長 工藤 哲士



経営理念：他者と共生する豊かな心の育成



小平市の目指す人間像：
「社会的に自立し、
地域・社会に貢献しながら、
他者と共生する人」

コミュニティ・スクールとして、
地域・家庭・学校の連携・協働を
すべての基盤とする。

目指す学校：「4つの『～がい』がある学校」

学校内

教職員にとって 「働きがい」がある学校

- ・切磋琢磨し合える環境。
- ・ライフワークバランスと持続可能な指導体制。

児童にとって 「学びがい」がある学校

- ・分かる、できる体験を通じた成長の実感。
- ・個別最適×協働的な学び。

学校外

地域にとって 「支えがい」がある学校

- ・「二小のためなら」とひと肌脱げる地域参画。
- ・高齢者交流と地域行事の協働。

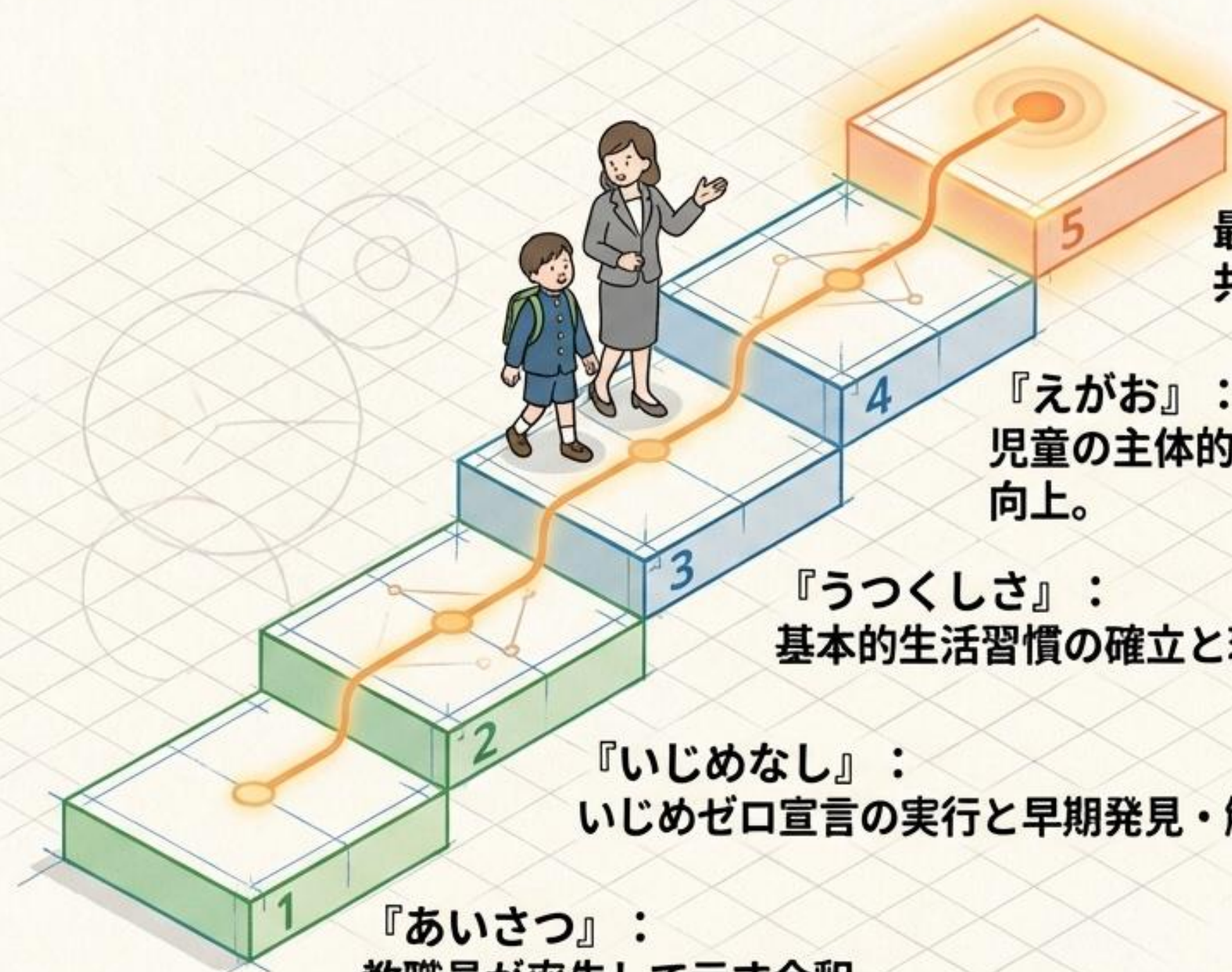
保護者にとって 「託しがい」がある学校

- ・「何も特別なことがなかった日こそ連絡を」を合言葉にした信頼関係。
- ・安全・安心。

提供・支援

成長・実感

二小の基盤：日常から育む「あ・い・う・え・お」



『あいさつ』：
教職員が率先して示す会釈。

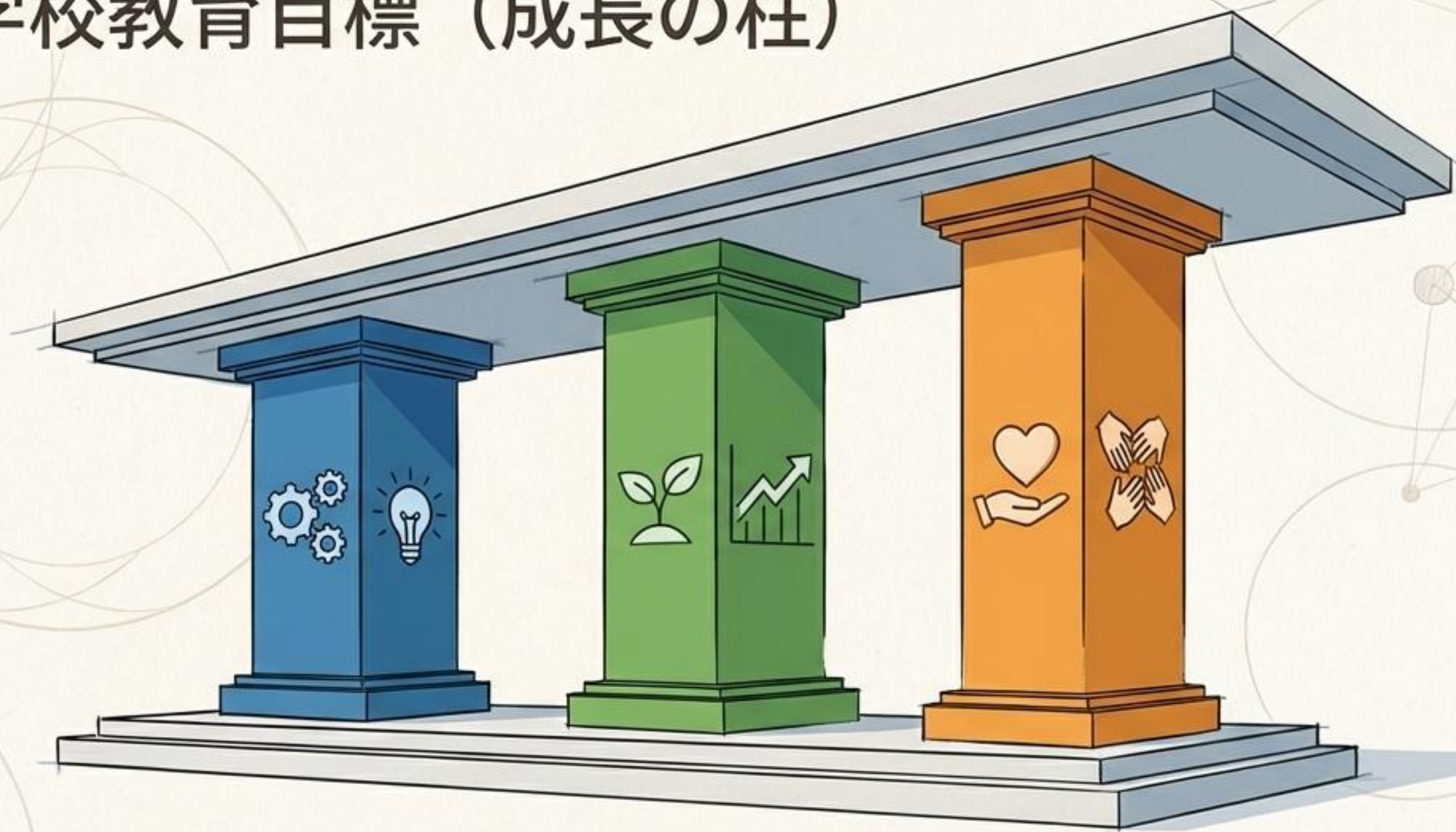
『いじめなし』：
いじめゼロ宣言の実行と早期発見・解決。

『うつくしさ』：
基本的生活習慣の確立と環境への気づき。

『えがお』：
児童の主体的な取組による自己肯定感の
向上。

『おもいやり』：
最終到達点。相手の立場を考え
共に生きる心。

3つの学校教育目標（成長の柱）



考える子

自分の考えをもち、
判断し、行動できる子
(確かな学力の定着・向上)

やりぬく子

元気でたくましく、
最後まで頑張る子
(健やかな体の育成)

◎思いやりのある子

相手の立場や気持ちを考え、
共に生きる豊かな心をもつ子
(豊かな心の育成)

方策1：確かな学力の定着（「考える子」の実現）

個別最適な学び

習熟度別指導、
東京ベーシック・ドリル。

協働的な学び

学年での教科担任制
(中学校への円滑な接続)。

ICT/AI活用

GIGAスクール構想、デジタル
教科書、プログラミング教育。

特別支援の視点

専門性を有する教員による
個に応じた指導。

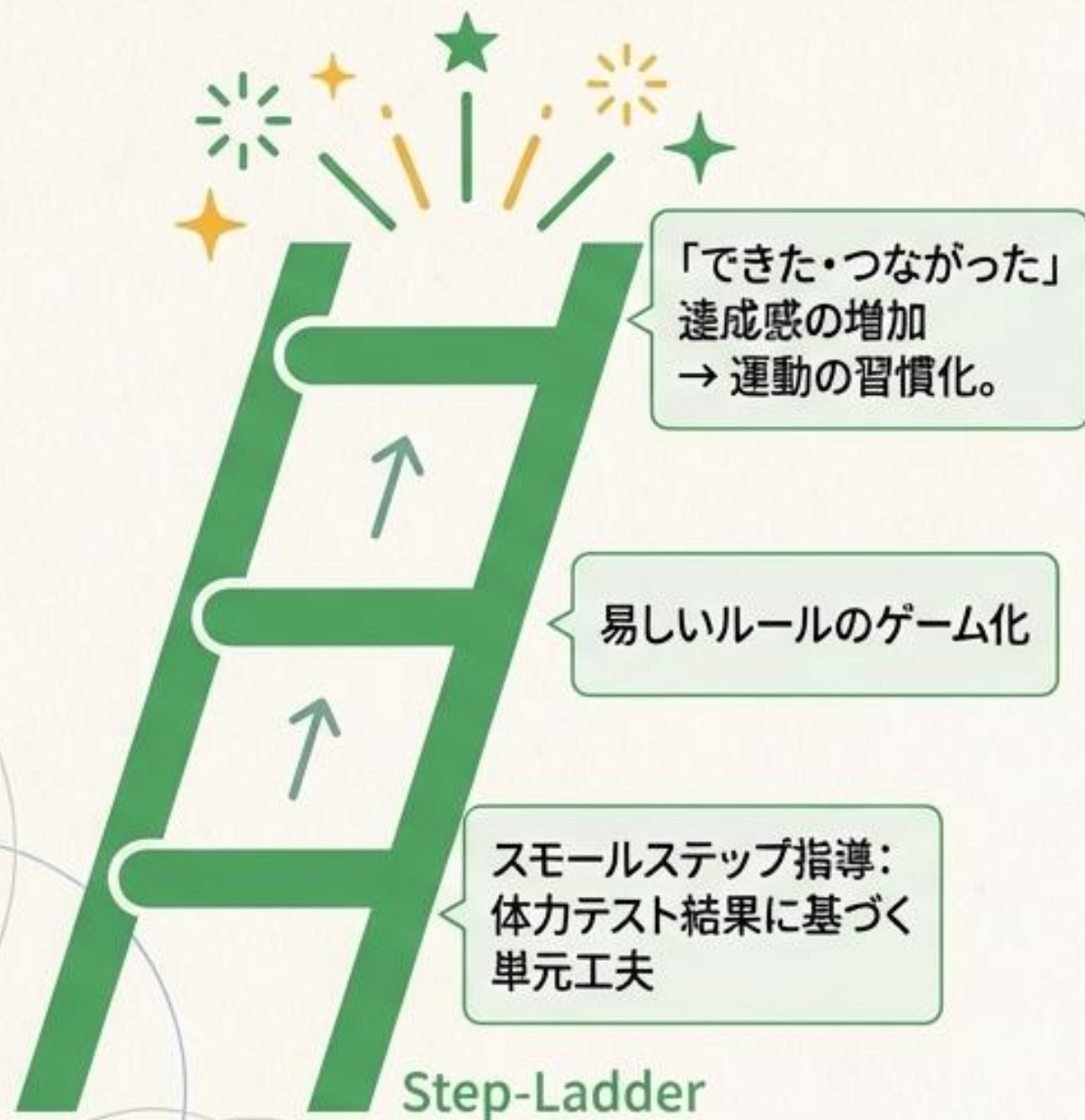


「誰でも分かる授業」
の実践

授業時間の確保と金曜日45分の「補習タイム」の有効活用（※補習タイムに会議を入れない徹底）。

方策2：健やかな体の育成（「やりぬく子」の実現）

体育指導のステップアップ



生活と災害の安全網



生活安全



「いじめゼロ宣言」に基づく各学級の年間目標実行。
不登校傾向児童への組織的対応（生活支援シート）。

災害安全



「訓練は本番のように、本番は訓練のように」。
防災頭巾の常時携行と防災意識の向上。

方策3：豊かな心の育成（「思いやりのある子」の実現）

学校図書館の3機能



情報センターとの連携

「考え、議論する道徳授業」の実践と道徳授業地区公開講座。



読書センターとの連携

多様な交流活動：異年齢集団、若草学級、小平高齢者交流室との意図的な交流。

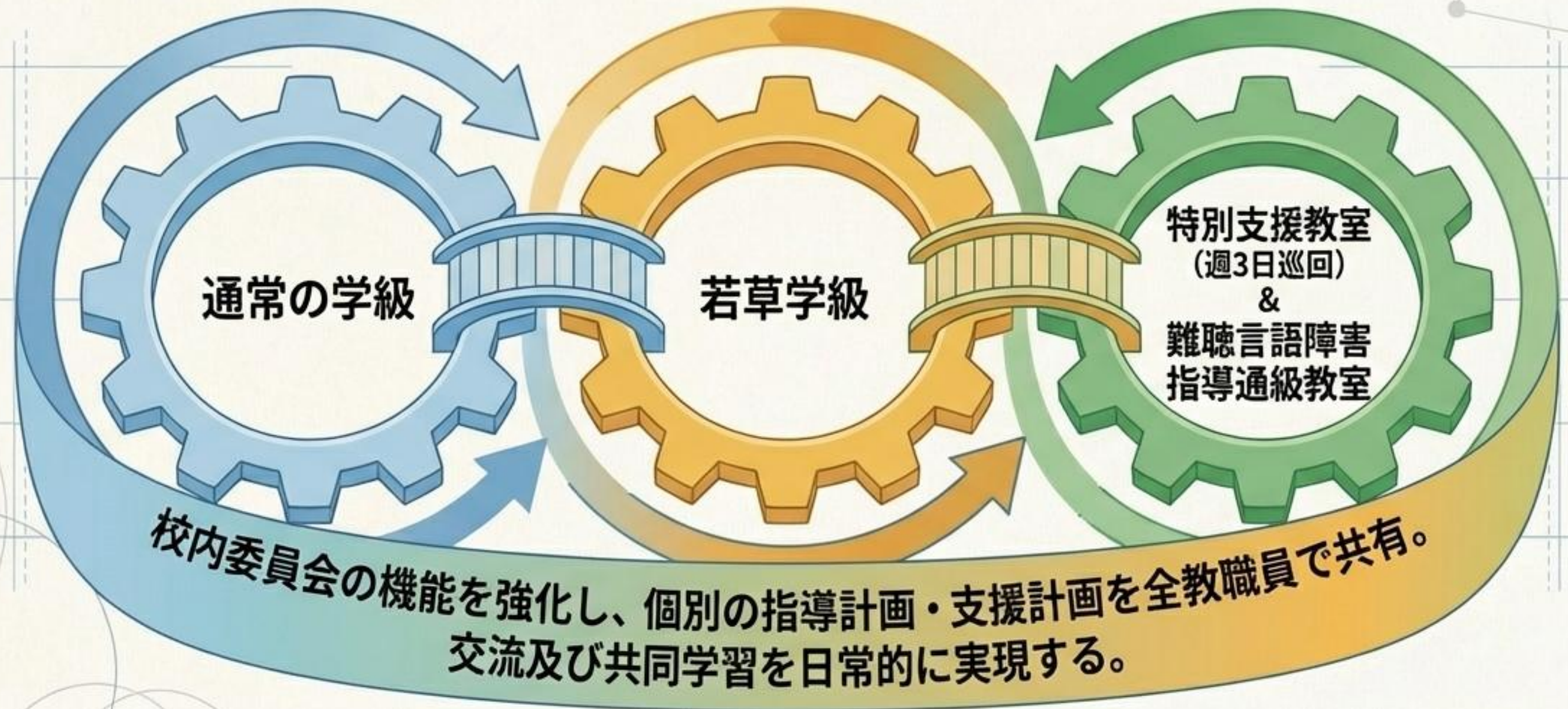


学習センターとの連携

「2020レガシー」：パラリンピック競技（ポッチャ・モルック等）を通じた共生態度の育成。

特色ある学校づくり：特別支援教育の推進

専門性を有する教員が在籍する本校の強みを最大限に生かす。



教職員の組織力向上：プロとしての自覚と安心

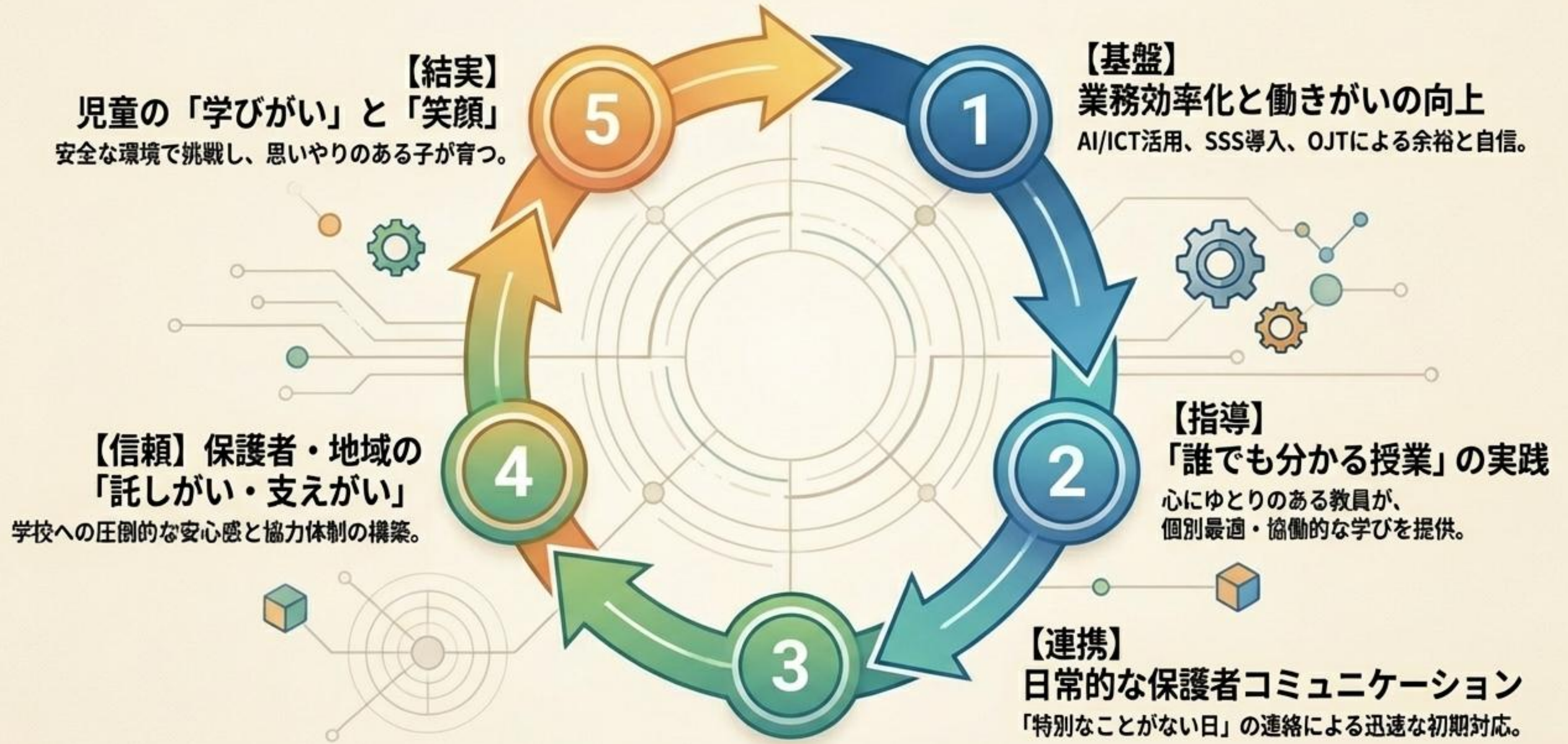


教職員の心身の健康なくして健全な学校経営は成り立たない。
ライフワークバランスの重視と持続可能な指導体制の構築。

学校基盤の最適化：予算執行とICT・AI活用



笑顔あふれる学校の好循環



地域とともにある、小平第二小学校

- ・児童一人一人を大切にし、地域から信頼される学校づくり。
- ・学校経営協議会、青少対、PTA、地域教育コーディネーターとの強固な連携。
- ・「人と人とのつながりを大切にする、笑顔あふれる学校」を、地域・家庭・教職員のすべての力で実現します。



令和8年度も、皆様の温かいご理解とご協働をお願い申し上げます。